

白人優越主義という不正義は独立宣言と矛盾するものであり、ハリウッド映画にも多く目立つ。1961年に10個のアカデミー賞を受賞した“West Side Story”は、プエルトリコ人の青年達がアメリカの罪と美德を歌い踊る。「アメリカでは全てが輝いている」と歌えば、主役の少女は、「もしあなたが白人のアメリカ人なら・・・」と答える。同様に1979年製作の“Being There”は、アメリカン・ドリームの偽りの姿を描くブラックユーモアである。黒人一家の一人は言う。ただ白人だけがアメリカン・ドリームを実現することができるのだと。

“White Racism”(Routledge, 2001)という著作には、1990年代のある町のアフリカ系アメリカ人に対する信じられない偏見の実態が、リアリティーを持って暴かれている。キング牧師の「私には夢がある・・・」の演説は、まだ完全に実現さ

れたわけではない。

50年代初期、Elvis Presley はデビューした頃の、歌いかたや踊り方が「黒人のようだ」と猛烈に非難された。Martin Luther King, Jr. は言論で責められ、暴漢に襲われ、14回投獄された末、ロレイン・モーターのバルコニーで銃弾に倒れた。ただ、彼が白人ではないというだけで・・・。

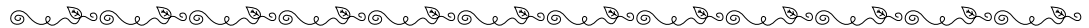
“A Knock at Midnight - The Great Sermons of Martin Luther King, Jr.”, Abacus, London, 2000

ルイス・カナレス

(教授・ポルトガル語学・スペイン語学)

わたなべ きよこ

(英文翻訳家)



触れてみましたか？ 図書館のKISSに(23)

機械化推進委員会委員長 藤井達也

前号では、今号で検索の裏技をご紹介します旨の事を書きましたが、これは延期することになります。その代わりに今回はこの夏に実施される機械化の概略をお伝えすることになります。

この夏の機械化のポイントは二つあります。本館・第二閲覧室横の検索コーナーと、本館検索台の端末入れ替えです。

今回、第二閲覧室横に新たに検索コーナーを設けることになりました。この検索コーナーには端末を3台設置して、図書館の蔵書検索やインターネット等を利用していただけるようになります。決して広いスペースではありませんが、快適に利用していただけるようにパソコン用のラックや椅子を新調し、エアコンも設置することになっています。床はOAフロアになります。

本館検索台のパソコンの入れ替えの方ですが、新しい機種5台を導入する予定です。最近普及が進んでいるTFTタイプの液晶画面です。画面は15インチですが、表示面積は現在の17インチディスプレイとほぼ同じです。スペースがすっきりとして画面も見やすくなると同時に、検索スピードの向上が期待出来ます。

これ以外にも情報処理教育センターによる学内LANの回線グレードアップの一環として、図書館内の回線もレベルアップされる予定です。この結果、特にインターネット系のスピード向上が期待できます。さらに本館のサービスカウンター横に新しいプリンタを導入してサービスの向上を図ったり、ライブラリーカード再発行システムを改善することでカードの品質を向上させたり、出来る限り細かい点にまで目を向けて行こうと考えています。

上記の項目は、この記事を読んでおられる頃には導入済みのことと思います。是非図書館に来ていただいて、これらを実感していただきたいと思えます。